



とよ有と美肌通信

12月号

vol.12

島金よう

December

○ 今月号のとびたち美肌通信の表紙は

○ 12月のクリスマス！星がまゆいほ空から

サンタクロースととびかいがプレゼントを届ける

* 準備をしています。今年は何がもらえるかな？ *

○ チョコレートを食べる事が好きで、

* カード集めやゲームをする事が好きな。 ○

○ 男の子が描いてくださいました！ *

ありがとうございます *

+ ○ 院長はじめ

スタッフ一同

* バック感謝いたします！



令和2年11月21・22・23日の3連休を迎えるにあたって日本医師会は同月18日に、この連休を「秋の我慢の3連休」と呼んで国民に移動や外出の自粛を要請した。おそらくこの結果は約1~2週後に明確になることでしょう。

子思(孔子の孫)が著した中庸という書に、「君子は其の位に素して行い其の外を原はず」というのがあります。

どういう事かという、君子(立派な人物)は自己に与えられた環境の中で、運命を嘆いたり不平不満を口にしたりせず、一所懸命に努力をして何だかんだ余計な事は考えたりしないという事だ」という。更にこの中庸には「富貴に素しては

富貴に行い、貧賤に素しては貧賤に行い、夷狄に素しては夷狄に行い、患難に素しては患難に行う。君子入るとして自得せざる無し」と記されている。これはという、富に恵まれ

身分が高い時も、また貧乏や地位が低い時であつても、不便な土地にいる時も、困難の真

只中であつても、決して驕らずへこたれず"ベストを尽くす"という意味である。

一部の海外政府のコロナ政策と日本の政策を比較した時、全く違う所が根っこの部分にある様な気がする。つまり海外の国では生き残りたい者は生き残れる努力をしる。どうしても良いと思つている者は淘汰されなさい。それも自己責任だ。一方日本の場合は、国民の性質としてみんなが努力しようとする気持ちがある程度存在しているのだ、みんなが我慢しようよという所に違いを感じる。それが海外から秩序がある国民という評価になっているのだと思う。日本を日本たらしめているものの一つが我慢であり、勤儉であるのだと思う。日本人としての心の復興なくしてコロナを制圧できることは難しいと考える。グローバルな思考や多様性の名の基に日本人も変化してきた。「〇〇に行きたい」、「〇〇をしたい」、の様に「たいの奴隷」になる事なく其位素行の人生を送れば、コロナという目には見えない敵にも日本は打ち勝つことが出来ると、思う近頃である。

院長, 拝